

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	ホームの自己満足にならないよう、利用者の意向を重視しながら少しずつ関係を深めていきたいと考える。

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○	協力をいただくばかりではなく、ホームとしてできることを地域に還元できるよう取り組みを積み重ねたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の取り交しは勿論のこと、内容が変わった際も説明を実施し理解をいただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアカンファレンス時にホームに対する意見や要望等を確認。また、介護相談員からも利用者の本音を聞きだしていただいている。小さなことでも確認された意見等については、記録にて周知し対応を図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議、ケアカンファレンス、面会時にホームでの様子を報告。面会が少ないご家族に対しては必要に応じて電話連絡や文書にて報告を実施している。金銭管理については、半期に一度、明細確認を行なっている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎年、ご家族アンケートを実施しており、その結果についても報告、改善につなげている。また、ケアカンファレンスにおいても、ご意見や要望を確認。法人全体に「ご意見をください」やオンブズマン制度も設置されている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員ミーティングの場にて、意見交換を実施。また、半期に一度職員個別面接があり、個々の意見等を確認している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の理解が得られており、必要に応じて勤務調整は可能。また、利用者の状態に合わせた体制については毎月、見直しを実施している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者も馴染みの関係を重視している。やむを得ない人事異動についても、職員全体で利用者への配慮を実施している。		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングをしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ホームサービスのみでなく、必要性に応じて他のサービスの説明並びに案内を実施している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始をするに当たってはご本人に来所していただき、ホームの雰囲気を感じていただけるよう依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ホームでも大切にしている関わりのひとつである。互いに支えあえるよう、利用者への相談・協力依頼・説明を実施している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	同上		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個々の状態に応じて、ケアカンファレンス時や面会時を活用し、ご本人とご家族の橋渡しを実施している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の状況に応じて、ご家族に協力を依頼したり、馴染みの場所へ出向く等の関わりを持っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者のほとんどが長期利用となっており、利用者同士も馴染みの関係になっている。反面、気が合う・合わないという利用者もいらっしゃるので、その際関係介入を実施している。		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりが必要な方に対しては、関係継続は可能。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活における意向・対応はケアカンファレンスにおいて確認、統一を図っている。また、センター方式アセスメントにて利用者本位の視点で検討を実施している。	○	ご本人の思いを確認していくことに終わりは無い。振り返りや職員間で共有する場を今後も設け、意向の把握を実施していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	バックグラウンドアセスメントやセンター方式アセスメントにて把握を行なっている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケアカンファレンス時や毎月の職員ミーティングにて、現状の振り返りと確認を実施している。また、個別の生活の流れ表にて暮らしぶりを把握している。	○	心身の状態が生活に影響を及ぼすため、日々の把握は今後も必要である。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式アセスメントから必要に応じて課題抽出シートへ転記し、課題・優先順位の明確化を図りサービス計画を作成している。ケアカンファレンスにはご本人及びご家族・看護からも意見をいただいております。状況に応じて主治医の意見も組み込んでいます。	○	ご本人・ご家族の思いや要望、関係者からのアドバイス、職員の気づきを総合して、本人なりのサービス計画作成は今後も取り組んでいきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス適正チェック票にて、毎月見直しを実施。緊急を要する場合は、関係者(機関)への相談やミニカンファレンスにおいて検討している。	○	同上

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録とは別に、日々の変化を連絡帳に記載し、職員間で共有しケアに展開している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	環境の変化を回避するため、入院利用者の早期退院や看取り介護の対応等、必要に応じて関係者の協力が受けられる体制である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進会議を中心に、地域資源の活用について協議・取り組みを行なっている。不定期ではあるが、近所の高齢者がボランティアに来所してくれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	法人内事業所や地域事業者への相談は可能。県内の他グループホーム事業者とも連絡を取り合える環境である。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在は運営推進会議の場にて相談をするといった体制である。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人の心身の状態について、ご家族・主治医・看護との連携を図っている。緊急を要する場合や看取り期は協力病院から往診を受けられる体制である。		

事業所名： 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	身体面は勿論のこと、生活状況についても主治医へ報告・相談を実施している。	
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	週1回、看護師が来所し健康相談と観察にて助言・指導をいただいている。また、緊急時には連絡にて相談を実施している。	
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は同行し、利用者の情報交換(書面・口頭)を実施している。また、入院中におけるケアカンファレンスにも参加し、利用者の生活が可能な限り継続できるよう働きかけている。	
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ケアカンファレンスにおいて、終末期のあり方について確認を実施している。また、ホーム看取り介護指針を協力病院・看護の配付し、理解をいただいている。また、グループ全体で看取りの指針が整備されている。	
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度化対応及び看取り介護の指針・看取り介護手順は策定できている。	
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	現在該当者はいないが、そのような場面が発声した場合、情報交換は可能である。	

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の8大権利について教育訓練内容に組み込んでおり、全職員の理解過程を終了している。あわせて、日常生活の中での気づきや振り返りをミーティングの場で実施している。	○	終わりのない内容であるため、振り返りと確認を今後も実施していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	50と同様 個々、利用者の持っている力に合わせて自己決定できるよう、相談・助言・説明を実施している。	○	同上
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	50と同様 毎日、その日の予定や希望を確認する時間を設けている。また、利用者の状態に応じて都度の対応を実施している。	○	同上
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	50と同様 個々、利用者の好みについて情報収集を実施、展開につなげている。美容院も利用者によって違い、外出同行を実施している。	○	同上
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎月、利用者参加の献立会議を開催しており、要望や希望を献立に反映している。また、準備から片付けまで無理強いしない中で利用者の状態に合わせて実施している。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	上記同様、献立会議にて好みのもの確認、献立に組み入れている。また、嫌いなものについては代替え品を用意して対応している。		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	現在、昼夜通じておむつを着用されている方はいない。必要に応じて排泄チェックを実施し、個々に合わせた介助を実施している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、夜間入浴も可。その日の希望にあわせ、入浴支援を実施している。また、入浴介助(支援)の統一表にて、介助方法を共有・見直しも実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間ケア(習慣・環境)統一表にて、安心して休めるよう取り組んでいる。また、定期的に見直しも実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	センター方式アセスメントやケアカンファレンスにて得られた情報や日常生活における気づきや意向等、「生きていること」が実感できる支援を積み重ねている。	○	「できるけれどしたくないこと」「できないけれどしたいこと」等、行動だけでなく本人の思いも含め、持っている力を活かせる関わりは今後も深めていきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金額の多少はあるが、現金の所持はされている。この状態に応じて、自ら使えるようにお小遣いの補充確認や買い物時の支援を実施している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日、外出希望確認を実施しており、買い物等の予定がある際は利用者に案内を実施している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者から聞かれた希望については、ご家族に伝達し協力をいただいている。また、ご家族の了承を受け、ホーム側で外出支援する場合もある。		

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各居室に外線電話が設置されており、利用者自らが電話を掛けられる。手紙についてもやり取りは可能。また、必要に応じて代行も実施している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居室(個室)や2階リビングの使用にて訪問を受け入れている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人に委員会が設置されており、定期的に勉強会も開催されている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム内に設置されている鍵は利用者が使用できるものである。日中はフェンスの鍵も開錠しており、自由に外に出られる環境である。(夜間は家庭と同様施錠)		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	2階建の建物であるため、基本的に各フロアが担当できる職員配置を実施(外出や行事等特別な場合は利用者人数にて調整)しており、適時の確認を行なっている。また、夜間、頻回の状態観察が必要な利用者に対しては協力依頼を実施し対応している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホーム側の思い込みで何もかも奪わないことを重視している。その為には、個々のアセスメントが重要になり、できること・できないこと、わかること・わからないこと、リスクアセスメントを積み重ねている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	法人に委員会が設置されており、個々のデータ収集や定期的な勉強会も開催されている。ホームとしても、個別並びに内容において、多く発生しているひやり・事故に対して予防処置を打ち出し取り組んでいる。	○	事故発生により、現状の生活が維持できなくなる可能性があるため、小さな気づきも情報として把握を続けていく。

事業所名: 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人勉強会も定期的開催されている。緊急時の対応についても共有しており、対応手順が事務室に掲示されている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期総合防災訓練は全利用者参加で実施している。また、定期訓練のみでなく、ホーム自主訓練も行なっている。	○	地域との防災連携が図れるよう、現在検討中。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアカンファレンスにおいて、リスクに対しての説明を実施している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	身体面の観察ポイントについて勉強会で確認をしている。また、日々の中で感じられたちょっとした変化についても申し送りや連絡帳にて共有・対応につなげている。	○	わずかな体調変化が生活に支障をきたすことも多いため、早めの対応を今後も実施していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容や注意・副作用について、事務室に一覧表を掲示している。また、変更があった際は連絡帳に記載後、色枠で囲み注意の徹底を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	個々に応じて排泄チェックを実施し把握に努めている。自らトイレに行かれる方にもいらっしやるため、便器汚れや臭い等で確認を実施している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個々の状態にあわせ、食後の口腔ケアを実施している。		

事業所名： 寿ノ家 グループホーム

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事留意点表にて量や形態(好き嫌いも含む)の統一を図っている。また、献立は法人管理栄養士にチェックしていただき、提供としている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人に委員会があり、定期的な勉強会やマニュアルも整備されている。旬な話題や対応については、毎月の職員ミーティングにおいて検討、周知している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、調理器具の消毒を実施している。食材についても、担当者が中心となって管理を行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ベンチは地域の方にも活用していただいている。利用者も掃除や洗濯後の一休みや日向ぼっこに使用している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	プランターで草花や野菜作りと季節の移り変わりを感じられるよう配慮している。生活につかう備品についても、きれいに片付けてしまうより、わかりやすさを大切にしている。年齢による視力低下の方もいらっしゃるなので、安易な備品の移動はせず、慣れた環境を大切にしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ベンチや内側の椅子、2階リビングや階段下のベンチ・椅子等、思い思いに過ごせる空間がある。		

事業所名： 寿ノ家 グループホーム

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた馴染みのものを持って来ていただくよう依頼し、持ち込んでいただいている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や空調は心身にも影響を及ぼすため、細かな調整を実施している。過剰な温度設定は避け、適度に暑さや寒さを体感する機会も大切にしている。	○	ちょっとしたことにも影響を受けやすい利用者の状態から、環境への配慮は今後も引き続き取り組んでいきたい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じ、座布団を使用して立ち上がりやすくしたり、浴室では手すり部に色テープを貼り自らが掴まる場所の認識やシャンプー等のボトルを色分けを実施。また、食事については食材が目立つよう色皿を使用し、出来ることへの支援を行なっている。	○	高齢に伴い状態は変化していくため、都度の把握や検討は今後も取り組んでいきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	安易に表示をするのではなく、何がわからなくて失敗しているのかを探り、工夫を実施している。	○	同上
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには洗濯干し場があったり、日向ぼっこをしたりと活用している。		

事業所名： 寿ノ家 グループホーム

V. サービスの成果に関する項目	
項目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの
	<input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある
	<input type="radio"/> ②数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> ③たまにある
	<input type="radio"/> ④ほとんどない
90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
94 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が
	<input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが
	<input type="radio"/> ④ほとんどいない
95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と
	<input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと
	<input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと
	<input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者ひとりひとりが生活の主体者であり、職員はその支援者である。しかし、利用者に助けられることも多く、「お互い様」と思う場面が日常的にある。人と人、互いに尊重し合える関係を大切にしながら生活を送っていただきたい。